



世帯数	5,890戸
人口	14,552人
(平成27.3.1現在)	

第30回松本市公民館研究集会開催

寿地区住民が多数参加

2月17日に第30回松本市公民館研究集会が開催されました。午後には開催された分科会では、寿地区の事例が多く発表されました。以下、参加者の声です。

*** **

「子ども・子育て分科会に参加して」

主任児童委員

百瀬 千春 (上瀬黒町会)



私は主任児童委員の百瀬敬子さんと、話題提供者として寿地区で行った

ている子育て支援192(いくじ)サロンの活動について発表してきました。

また、松本ママの会の森岡さんは自身の体験談をお話し

され、その中で、知り合いのいない松本に転動してきて、隣に住む子育て中の方に「つどいの広場」を紹介され、そこで知り合った仲間とグループを作り、公民館に集まって自分たちでイベントを行っているとのことでした。公民館や行政に求めることも具体的に話されたので、自分のこれからの活動の参考になりました。

その後、グループに分かれ「地域で子どもを育てるってどういうこと?公民館の役割とは?」について話し合いました。ゴミ出しが良い交流の場になっている、ほのぼのとした声掛け合えるまっちゅくり、お父さんも参加できる公民館でのイベント等、ざっくばらんなお話の中からも、公民館でできることはまだまだたくさんあるのではないかと感じました。

「防災分科会に参加して」

寿地区防災部長

表 佳明 (百瀬町会)



私は防災分科会に参加し、百瀬町会の災害時に行っている活動の説明と27年度寿地区で計画している災害対処法の2つを説明いたしました。

20分の説明では参加した皆さんに伝わったかどうかは疑問でしたが、最後のフリートークで百瀬町会家族安否情報(避難所名簿と兼用のもの)には興味を示してもらえ、非常に合理的だとの評価をいただきました。今回参加した中から、一町会でも百瀬町会の安否情報の様式を検討し、自分の町会に合った方法で採用していただければ幸いかなと思います。また、27年度寿地区で計画しております災害対処マニュアルも中学生・高校生・大学生の授業の一環として協働して作業できればと思います、何か良いアイデアはないかと問いかけましたが、具体的な案はありませんでした。

27年度中に、公共公益地区団体・地区企業等に働きかけ、地震・局所豪雨・土砂災害・

河川の異常水位上昇等に地区全体で取り組み、安全安心な地域づくりの一翼を担いたいと思います。

*** **

他にも「公民館委員会分科会」では視聴覚委員長の洞澤喬さんが発表、「地域福祉分科会」には下瀬黒町会長の遠藤勝弘さんが市民実行委員として参加しました。寿地区の地域づくりの様子が松本市に多く発信された集会成为りました。

待望の平田橋開通



寿地区には北の方から寿橋、平田橋、百瀬橋、ちくま野橋、田川橋、5本の自動車の通る橋があります。平成24年から東西幹線道路整備計画による市道の拡幅と、平田橋

田橋の通行ができなくなっていました。昨年12月によく仮開通となりました。

平田橋は東西の架け橋として寿地区の重要な橋の1つであり、通行量も多く、この2年間の工事によって他の橋に迂回する車で朝夕の渋滞が毎日続きました。また、工事のことに関しては、長期間に及ぶことから、寿の住民の中には松本市に苦情の申し立てをされた方もいたとお聞きしました。日常使用されていた橋が通れなくなるとこんなにも不便なことになるのかと感ずるとともに、橋があることのありがたさを感じたところです。

開通によって、これまでの迂回による他の橋での渋滞は少なくなりました。まだ予定ではありませんが、27年3月末には道路の拡幅工事の完成とともに、平田橋も完全開通となります。また、橋を渡った寿田町の交差点に、頻発する交通事故の防止を目的に、27年度中に信号機を設置する予定とのことです。これからの寿地区の発展につながることを期待します。

館報編集委員
寿田町会 菅田 金幸

風を感じて



白川町会
片桐 博人 さん

陽気もすっかり春めいてきて、これからの時期、車やバイクを使ったドライブに最適なシーズンを迎えます。

そこで今回はバイクをこよなく愛し、ツーリングライフを満喫されている白川町会の片桐博人さんを紹介します。

Qまずバイクに乗り始めたきっかけは？

A乗り物や機械いじりが好きで、スピードが好きだったのが乗り始めたきっかけです。Q今までのツーリングで一番印象に残っていることは？

A最近あまりまとまった休みが取れないので日帰りが多いですが、どのツーリングもそれぞれ印象深いですね。

仕事が終わって夜風にあたりたくなり、横浜の夜景を眺めて缶コーヒーを飲んで帰ってきたり、日帰りで淡路島のイベントに参加して、その足で鈴鹿8時間耐久レースを観戦して帰ってきたりと、一日

に500〜1000km程の散歩を楽しんで呆れられますよ。

ただし、どこに行っても必ず大好きな美味しいソフトクリームは食べてますね！

Qズバリ！バイクの魅力を熱く語ってください！

Aバイクに乗っているとよく『気持ちよさそうですね』と言われますが、暑いし、寒いし、雨が降れば濡れるし、間違いなく車の方が快適な乗り物です。でも、それすらも楽しみ、風を感じ、季節の移り変わりを肌で感じられる。そ

わがまちこの人

して五感を研ぎ澄まして非日常の世界へ走りだし、自らの心を取り戻す大切な相棒ですね！

Q最後にこれからバイクに乗ろうと思う若者に一言！

A決して他人に勧められて乗るものではなく、まして危険な乗り物です。でも興味が湧いたらいつでも仲間になります！

片桐さん、ご協力ありがとうございました。皆さんもバイクに挑戦して風を感じてみませんか。

館報編集委員 百瀬 肇

農業を語る



小池町会
草間 丑次 さん

今回は草間丑次さんに、小赤営農を中心に農業について色々お話を聞きました。

「小赤営農の前身の南部機械利用組合が出来た経緯は、長野道の工事で圃場整理が行われ、水田面積が広がった

として、新そば試食会・そば作り講習会を行ったり、収穫祭を行っています。

小赤営農の作業従事者が不足しています。受託面積が年ごとに増加していく中で、作業従事者の高齢化が進み、若い人達が積極的に参加してくれると有難いです。

これからの農業を考えるとして、TPP問題、減反政策の変更、農協改革、後継者問題等、難しいことばかりで、大変です。

地方創生で農業の活性化、子どもたちからの農業体験、地産地消等、知恵を絞って農業を守っていくにはいけない。日本の農業は安全、安心です。農家以外の人も、農業についてもっと考えていただけると有難いです。」

【草間丑次氏】昭和12年生まれ、77歳。趣味は高校時代から野球。小池町会では、育成会長・町会長を歴任。現在、農事組合長小赤営農組合長、小赤地区みどり保全協議会代表。

【農事組合法人小赤営農】前身は、昭和58年設立の「南部機械利用組合」で、平成17年に法人化して現在の名称に。

小池・赤木の2つの集落の兼業農家で構成。組合員数192戸、総面積：畑60ha・果樹園20ha・水田65ha。平成25年度第43回日本農業賞大賞受賞。

編集後記

公民館報を発行して、はや一年、今回の館報で本年度最後となります。この小さな紙面に寿地区の行事や各町会で活躍する住民の紹介、たとえば「わがまちこの人」では各町会で話題の人あるいは特色ある趣味や特技のある人等を紹介しています。

もう一つの役割は、地区の歴史を活字として後世に残すことです。毎年の寿地区役員をその年度の一番はじめに掲載しており、変わり映えしないとの指摘もありそうですが、大切な記事と考えています。

寿地区は大きな地区なので、地区内の行事や催し物すべてを紹介できないのが残念ですが、そのなかでも、各町内で行われた行事など、身近な出来事をできる限り紹介できたらと考えて発行してまいりました。

この一年間は各町会選出の館報委員の皆様を支えられて委員長を務めさせていただきました。また、記事を提供してくださった皆様へ感謝申し上げます。と、来年度の寿公民館報に多くの皆さんからの記事が載るよう期待しています。

寿公民館報委員長 小林 一博